



単焦点眼内レンズの見え方(左)と多焦点眼内レンズの見え方(右)

イメージ(日本アルコン提供)

## 白内障手術の選択肢

## 多焦点眼内レンズ

白内障の治療に使う眼内レンズ。

従来は1点しかピントが合わない單焦点だったが、2008年から先進医療として遠近両用の多焦点レンズが使えるようになった。单焦点は手術後も眼鏡の使用が欠かせないが、多焦点は多くの人が眼鏡なしで過ごせるようになる。先進医療特約付き保険の普及などに伴い、今後多焦点レンズを選ぶ人も増えそうだ。

厚労省の先進医療指定を受けた専門医(2例以上)15例以上かつ1所。県内では、今年3月に指

眼鏡なしで生活も可能／検査費などは保険適用

白内障 目の中の水晶体(レンズ)が濁る病気。かすむ、まぶしい、ぼやけて2重に見えるなどの症状が出る。先天性や他の病気によるものもあるが、大半は加齢が原因。50歳代から増え始め、80歳代ではほぼ全員に視力低下が起こる。進行したら手術以外に視力回復の手段はない。眼内レンズ手術は昨年約129万件。

1度眼内レンズを入れると、レンズと組織が癒着するため再手術は難しい。「单焦点から多焦点に替えられないかと相談を受けるが、原則やり直しは無理。单焦点が多焦点か、どちらが自分に合っているか医師と相談して十分考えた上で決めてほしい」と古賀院長は助言する。

## 先進医療県内でも可能に

眼科こがクリニック(古賀貴久院長)がこれまでに29人47眼(31~80歳)の手術を行った。「老眼鏡も不要になり快適」「県外での手術を考えていたが、県内で受けられてよかったです」など患者にも好評という。

多焦点レンズの一番の特徴は、遠くと近く(老眼用)の2カ所でピントが合うこと。

单焦点は一般に遠くにピントを合わせるために、近くがぼやけ老眼鏡が必要になる。多焦点は1メートル以内がややぼやけるが、日常生活にはほとんど支障がなく、約90%の人が眼鏡なしで過ごしている。琴やオーディオ楽器を演奏する人、デスクトップパソコンを70~100センチの距離で使用する人は眼鏡を掛けた方がより見やすくなる。

多焦点も单焦点も手術方法に大差ないが、多焦点はレンズをより厳密に固定する必要

費用はかなり高い。单焦点の手術費用は健康保険3割負担で5万円程度だが、多焦点は自費で40~50万円。先進医療は35万円前後(いずれも片眼)。ただ、先進医療の場合、検査や合併症などの医療費は保険が適用される。さらに、最近普及し始めた先進医療特約付き保険に加入していれば、全額保障されるものが多い。契約内容を確認しておこう。

ある。手術は自薬の麻酔で片眼15分程度。両眼行う場合は1週間ほど間隔を空ける。「单焦点は手術翌日には視力が回復する人が多いが、多焦点は脳がレンズに慣れるのに時間がかかるため、最高視力が出るまで1週間程度かかる方が多いようです」と古賀院長。